



コロンボ日本人学校 学校便り

アーユ・ボーワン

平成24年12月17日 発行 No.8

失敗を恐れずチャレンジする子 世界一楽しい学校

「万能細胞」

校長 黒澤 秀美

二学期も残すところ1週間となりました。10月の運動会から始まり、宿泊学習等大きな行事がいくつもありました。そうした行事の中で子どもたちは、自分の持ち味を生かしいろいろな場面で活躍してきました。普段の生活の中では見られないすばらしい面をいくつも発見することが出来ました。一つ一つの行事、それに費やすエネルギーは決して小さくありませんが、そうした行事を通して得られる体験や実践は何物にも替えられない貴重な経験です。

ところで、ご存じのように先日10日、京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞の作製に成功したことでノーベル賞（医学生理学賞は利根川進教授以来25年ぶり、日本人で2人目）を受賞されるという、とても明るくうれしいニュースがありました。人間の体は60兆個の細胞からできているとのことですが、それらの細胞は発生の初期に、既に、体のそれぞれの部位になることが、遺伝子で決定されています。つまり、皮膚は皮膚、骨は骨、筋肉は筋肉というふうに。従って、病気などで悪くなったところの細胞をもう一度作るということではできませんでした。ところが今回の研究では、皮膚の細胞を使い、そうした遺伝子情報を一度リセットし、何にでもなれるiPS細胞「人工多能性幹細胞」を作り出したということだそうです。これは、万能細胞に至る前の段階ですが、将来、万能細胞が人の手で作れ、この細胞を思いのまま分化・形成することができれば、心臓でも手の指でも大腸も、耳も体の器官をいくらでも作ることが出来るということになります。つまり、事故や病気で失った器官・臓器を作り、取り替えることが出来るということです。もちろん、これが実現し人に応用されるのには、まだまだ長い時間がかかるのですが、夢のような話です。

無限の可能性を秘めた子どもたち。これから先、自分の努力や環境によって、いかようにも変わっていき、可能性を持っています。まさに「バンノウサイボウ」のように。今後の成長と活躍を期待しています。

